

平成12年 保健福祉動向調査の概況

心身の健康

目次

調査の概要	1頁
結果の概要	
I ストレス	
1 ストレスの程度	2
2 ストレスによる社会生活や日常生活への影響の程度	3
3 ストレスの内容	4
4 ストレスへの対処法	5
5 ストレスの相談相手	6
6 最も気になるストレスの状況	7
7 ストレスに対する周囲のサポート状況	8
II 睡眠	
8 睡眠に関する問題	9
9 1日あたりの睡眠時間と睡眠による休養の充足度	10
10 睡眠不足の理由	11
11 十分な睡眠を得るために実行した事柄	12
III 健康意識	13
IV こころの健康づくり対策への要望	14
参考表	15

厚生労働省大臣官房統計情報部

担当係 社会統計課国民生活基礎調査室 調査第3係

電話 (03)5253-1111 (内線 7591)

厚生労働省ホームページ (URL) <http://www.mhlw.go.jp/>

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、国民の保健及び福祉に関する事項について、世帯面から基礎的な情報を得ることを目的としている。

本年は、心身の健康をテーマとし、これらにかかわりのある意識や実態等を調査し、こころの健康を含む総合的な健康づくりに関する諸施策の基礎資料を得ることを目的とした。

2 調査の対象及び客体

全国の世帯員を対象とし、平成12年国民生活基礎調査の調査地区から無作為抽出した300地区内における満12歳以上の世帯員を調査の客体とした。

3 調査の期日

平成12年6月1日（木）

4 調査事項

- (1) 健康意識
- (2) ストレス（不満、なやみ、苦勞、ストレスなど）の内容とその対処法
- (3) 睡眠の状況、睡眠不足の理由
- (4) こころの健康づくり対策への要望

5 調査の方法

調査員があらかじめ配布した調査票に被調査者が自ら記入し、後日、密封方式により調査員が回収した。

6 調査の系統

厚生労働省 - 都道府県 - (保健所設置市・特別区) - 保健所 - 調査員 - 世帯員

7 結果の集計

集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部において行った。

8 回収客体数及び集計客体数は、次のとおりであった。

回収客体数	集計客体数 (集計不能のものを除いた数)
32,729	32,022

I ストレス

1 ストレスの程度

最近1か月間の日常生活における不満、悩み、苦勞、ストレスなど(以下「ストレス」という。)の程度をみると、「大いにある」11.8%、「多少ある」42.4%、「あまりない」25.3%、「まったくない」16.9%となっている。(図1)

ストレスが「大いにある」とする者の割合は、男性 10.8%、女性 12.8%であり、一方、ストレスが「まったくない」とする者の割合は男性 19.6%、女性 14.3%である。

年齢階級別にみると、「大いにある」は、男性では15歳から54歳で、女性では15歳から64歳及び85歳以上で 10%を超えている。

一方、「まったくない」は、男性では25歳から54歳を除く年齢階級で 20%を超えているが、女性では「12~14歳」及び65歳以上で 20%を超えている。(表1)

図1 ストレスの程度別構成割合

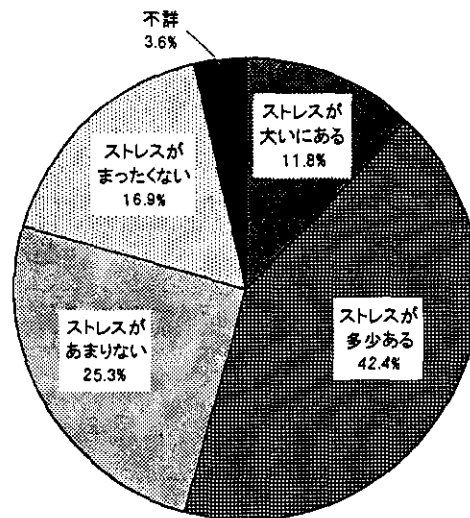


表1 性・年齢階級別にみたストレスの程度

	総数	平成12年 (%)				不詳
		ストレスが大いにある	ストレスが多少ある	ストレスがあまりない	ストレスがまったくない	
総数	100.0	11.8	42.4	25.3	16.9	3.6
男	100.0	10.8	39.7	26.4	19.6	3.5
12~14歳	100.0	7.1	28.1	25.2	36.2	3.4
15~24	100.0	11.4	38.5	25.1	22.7	2.4
25~34	100.0	13.4	45.3	24.0	15.5	1.8
35~44	100.0	13.4	44.4	26.1	14.0	2.1
45~54	100.0	12.3	45.5	24.5	15.7	2.1
55~64	100.0	9.0	39.0	27.6	21.3	3.2
65~74	100.0	6.4	30.7	31.7	24.9	6.3
75~84	100.0	8.3	27.7	28.1	23.7	12.3
85歳以上	100.0	9.8	21.3	29.9	24.1	14.9
(再掲)						
20歳未満	100.0	8.9	34.5	25.7	28.3	2.5
65歳以上	100.0	7.1	29.4	30.7	24.5	8.3
女	100.0	12.8	44.9	24.4	14.3	3.6
12~14歳	100.0	8.2	34.6	26.6	27.9	2.7
15~24	100.0	17.2	47.3	20.3	13.4	1.6
25~34	100.0	14.6	52.1	22.1	9.7	1.6
35~44	100.0	16.6	51.8	21.2	9.1	1.3
45~54	100.0	13.7	50.5	23.4	10.5	2.0
55~64	100.0	10.4	42.8	28.1	15.0	3.7
65~74	100.0	7.7	34.4	28.8	21.3	7.8
75~84	100.0	8.3	30.5	28.0	22.7	10.4
85歳以上	100.0	11.3	27.3	24.5	25.1	11.9
(再掲)						
20歳未満	100.0	12.9	41.5	23.6	19.9	2.2
65歳以上	100.0	8.2	32.6	28.2	22.1	9.0

2 ストレスによる社会生活や日常生活への影響の程度

なんらかのストレスありの者（ストレスがまったくない者を除いたもの。）について、ストレスによる社会生活や日常生活への影響（以下「生活への影響」という。）の程度をみると、「大いにある」7.1%、「多少ある」32.2%、「あまりない」43.7%、「まったくない」15.0%であり、これらの割合は、性別、年齢階級別にみても同様の傾向を示している。（表2、図2）

また、ストレスがもたらす生活への影響の程度は、ほぼストレスの程度にそったものになっている。（図3）

図2 生活への影響の程度別構成割合
（なんらかのストレスありの者）

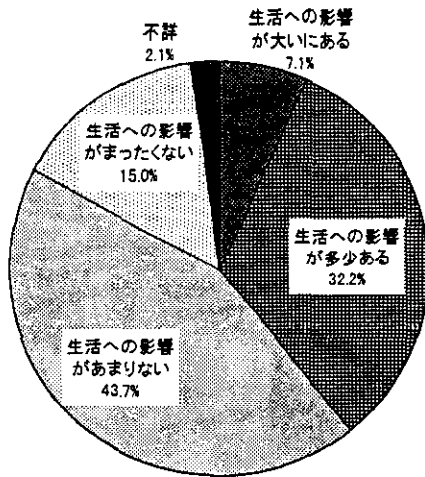


図3 ストレスの程度別にみた生活への影響の程度

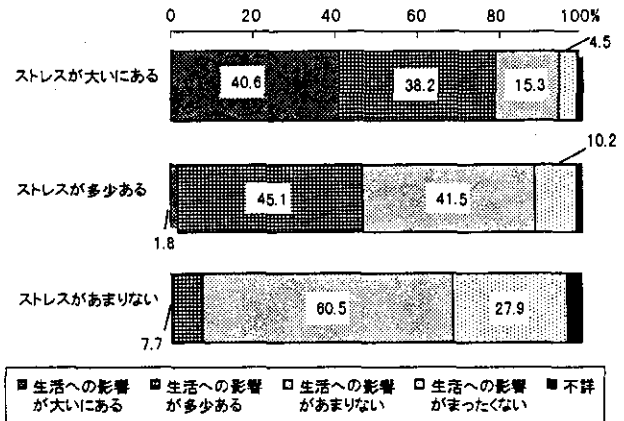


表2 性・年齢階級、ストレスの程度別に見た生活への影響の程度別構成割合 (%) 平成12年

	総数	生活への影響の程度				不詳
		大いにある	多少ある	あまりない	まったくない	
なんらかのストレスありの者	100.0	7.1	32.2	43.7	15.0	2.1
男	100.0	7.2	31.7	43.9	15.2	2.0
12~14歳	100.0	6.0	26.4	42.6	23.4	1.5
15~24	100.0	8.5	33.2	40.1	16.8	1.5
25~34	100.0	7.3	32.8	42.2	16.2	1.6
35~44	100.0	7.9	31.1	43.6	16.0	1.4
45~54	100.0	7.1	32.1	44.9	14.0	1.9
55~64	100.0	5.8	30.7	47.6	13.8	2.1
65~74	100.0	6.0	31.7	44.4	14.3	3.6
75~84	100.0	7.3	29.0	46.5	12.7	4.5
85歳以上	100.0	12.3	32.1	39.6	11.3	4.7
(再掲)						
20歳未満	100.0	7.0	30.8	41.0	19.6	1.7
65歳以上	100.0	6.7	31.1	44.6	13.8	3.9
女	100.0	7.0	32.6	43.5	14.8	2.2
12~14歳	100.0	3.9	31.0	43.7	20.3	1.1
15~24	100.0	8.3	36.0	40.8	13.4	1.5
25~34	100.0	7.3	34.6	44.4	13.1	0.7
35~44	100.0	6.9	34.4	44.3	13.4	1.0
45~54	100.0	6.6	31.8	43.5	16.7	1.5
55~64	100.0	6.0	30.5	44.6	16.5	2.4
65~74	100.0	6.2	28.3	44.5	15.7	5.3
75~84	100.0	8.5	30.9	41.0	12.9	6.8
85歳以上	100.0	13.4	36.3	37.3	7.5	5.5
(再掲)						
20歳未満	100.0	6.2	35.0	40.5	16.8	1.6
65歳以上	100.0	7.4	29.8	42.8	14.2	5.8
ストレスの程度						
大いにある	100.0	40.6	38.2	15.3	4.5	1.4
多少ある	100.0	1.8	45.1	41.5	10.2	1.4
あまりない	100.0	0.2	7.7	60.5	27.9	3.7

3 ストレスの内容

なんらかのストレスありの者について、その内容をみると、「仕事上のこと」30.5%が最も多く、「自分の健康・病気・介護」「収入・家計」「職場や学校での人づきあい」が続いている。

性別にみると、男性は「仕事上のこと」が41.3%ときわだって多く、女性は「自分の健康・病気・介護」「収入・家計」が25%を超えている。

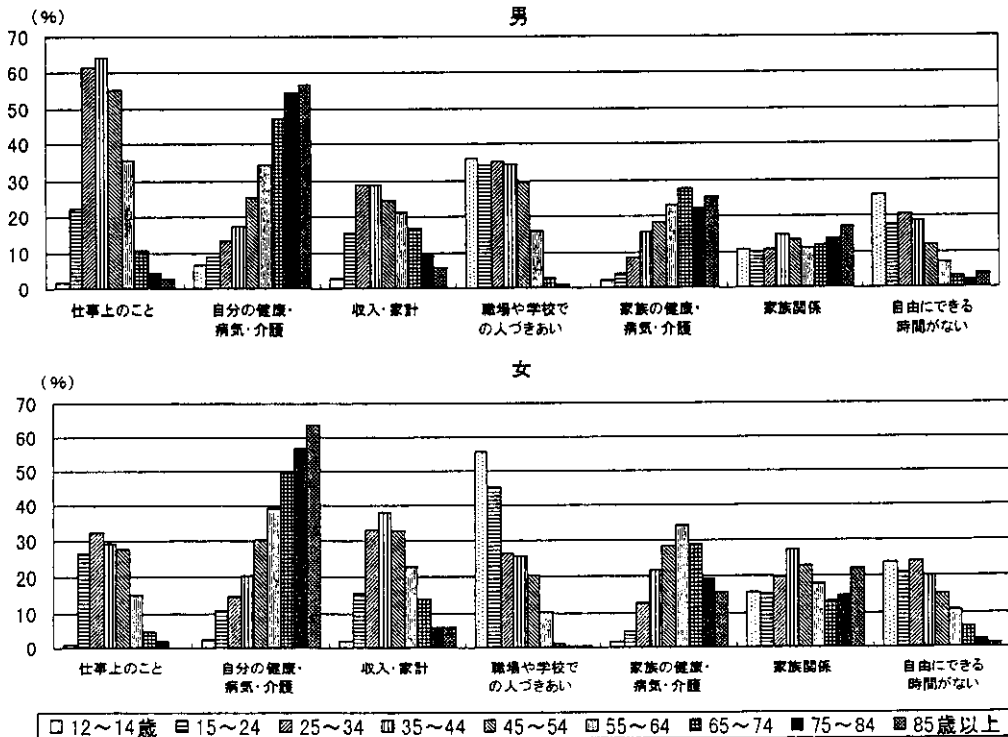
年齢階級別にみると、24歳以下では、男女とも「職場や学校での人づきあい」が最も多い。男性は、25歳から64歳までは「仕事上のこと」、65歳以上では「自分の健康・病気・介護」が最も多く、女性では、25歳から54歳までは「収入・家計」、55歳以上では「自分の健康・病気・介護」が最も多い。(表3、図4、参考表1)

表3 性・年齢階級別にみたストレスの内容（複数回答）

(%)	総数	平成12年						
		職場や学校での人づきあい	家族関係	自由にできる時間がない	仕事上のこと	自分の健康・病気・介護	家族の健康・病気・介護	収入・家計
なんらかのストレスありの者	100.0	23.0	16.0	14.5	30.5	26.7	18.7	23.6
男	100.0	25.5	12.1	13.2	41.3	24.6	15.8	21.9
12~14歳	100.0	36.0	10.5	25.8	1.5	6.6	1.8	2.7
15~24	100.0	34.2	9.7	17.5	22.2	8.9	3.8	15.4
25~34	100.0	35.2	10.6	20.4	61.6	13.4	8.4	28.7
35~44	100.0	34.6	14.8	18.5	64.2	17.5	15.4	28.7
45~54	100.0	29.3	13.3	11.6	55.3	25.2	18.2	24.7
55~64	100.0	15.8	11.0	7.0	35.6	34.3	23.2	21.3
65~74	100.0	2.7	11.7	2.9	10.6	47.2	27.5	16.6
75~84	100.0	0.7	13.6	1.8	4.0	54.3	22.5	8.9
85歳以上	100.0	-	17.0	3.8	2.8	56.6	25.5	5.7
(再掲)								
20歳未満	100.0	33.7	9.7	20.6	5.5	6.1	2.2	6.2
65歳以上	100.0	2.1	12.5	2.7	8.6	49.4	26.2	14.2
女	100.0	21.0	19.4	15.6	21.3	28.6	21.2	25.0
12~14歳	100.0	55.5	15.5	23.7	0.8	2.5	1.4	2.0
15~24	100.0	45.2	15.1	20.9	26.2	10.8	5.0	15.4
25~34	100.0	26.1	19.3	23.7	32.3	14.8	12.7	32.8
35~44	100.0	25.5	26.9	19.9	29.1	20.3	21.5	38.2
45~54	100.0	20.3	22.7	15.3	27.3	30.2	28.3	32.6
55~64	100.0	10.3	17.8	10.9	14.9	39.5	34.2	22.7
65~74	100.0	1.3	13.3	5.8	4.8	49.8	28.8	14.0
75~84	100.0	0.4	14.7	2.5	1.8	57.0	19.0	6.1
85歳以上	100.0	0.5	21.9	1.0	-	63.7	15.4	6.0
(再掲)								
20歳未満	100.0	51.2	15.6	23.2	7.0	6.6	1.8	6.2
65歳以上	100.0	1.0	14.4	4.4	3.5	53.1	24.7	10.9

注：表3及び図4におけるストレスの内容は、上位7位を掲載している。それ以外については参考表1を参照。

図4 性・年齢階級別にみたストレスの内容（複数回答）
（なんらかのストレスありの者）



4 ストレスへの対処法

ストレスがあったときの対処法は、「人に話して発散する」39.2%が最も多く、「のんびりする」「テレビを見たりラジオをきいたりする」が続いている。

性別にみると、男性は「趣味・スポーツにうちこむ」34.6%が最も多く、「のんびりする」「テレビを見たりラジオをきいたりする」「アルコール飲料（酒）をのむ」が続いている。一方、女性では、「人に話して発散する」がきわだって多く、50%を超えている。

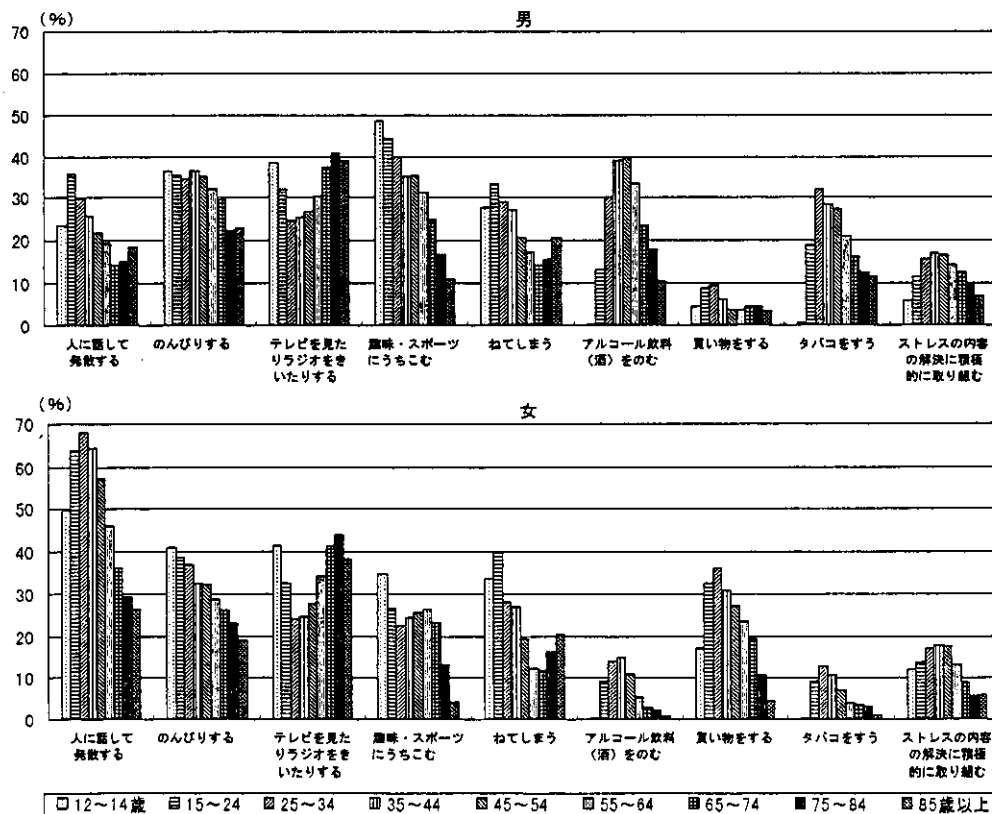
(表4、図5、参考表2)

表4 性・年齢階級別にみたストレスへの対処法（複数回答）

(%)		総数	ストレスの内容の解決に積極的に取り組む	人に話して発散する	趣味・スポーツにうちこむ	買い物をする	テレビを見たりラジオをきいたりする	のんびりする	タバコをすう	アルコール飲料(酒)をのむ	平成12年 おてしまう
総数		100.0	14.0	39.2	28.9	16.4	31.0	32.5	14.6	18.2	22.8
男		100.0	14.1	23.8	34.6	5.8	30.1	33.4	22.8	28.6	23.3
12~14歳		100.0	6.0	23.4	48.6	4.5	38.6	36.4	0.5	0.4	27.7
15~24		100.0	11.4	35.8	44.2	8.9	32.2	35.4	18.9	13.0	33.4
25~34		100.0	15.5	29.8	39.9	9.4	24.6	34.5	32.0	30.2	29.1
35~44		100.0	17.1	25.5	35.1	6.2	25.3	36.5	28.5	38.9	27.1
45~54		100.0	16.4	21.7	35.5	3.7	26.8	35.3	27.2	39.6	20.5
55~64		100.0	14.2	19.2	31.2	3.7	30.5	32.1	20.8	33.4	17.3
65~74		100.0	12.6	14.2	24.9	4.5	37.5	29.5	16.2	23.4	14.3
75~84		100.0	10.1	15.0	16.7	4.4	40.9	22.3	12.4	18.0	15.7
85歳以上(再掲)		100.0	6.9	18.4	10.9	3.4	39.1	23.0	11.5	10.3	20.7
20歳未満		100.0	8.5	30.1	46.7	7.0	38.1	37.3	5.9	2.5	32.3
65歳以上		100.0	11.6	14.7	22.0	4.4	38.4	27.3	14.9	21.3	15.0
女		100.0	14.0	53.4	23.8	26.2	31.8	31.8	7.2	8.7	22.4
12~14歳		100.0	11.9	49.6	34.8	17.0	41.4	41.0	0.2	0.2	33.6
15~24		100.0	13.7	63.8	26.6	32.5	32.5	38.7	9.3	9.3	39.8
25~34		100.0	17.0	68.0	22.3	36.0	24.2	36.9	12.9	14.0	27.9
35~44		100.0	17.9	64.3	24.3	30.8	24.5	32.4	10.7	14.7	27.0
45~54		100.0	17.6	57.1	25.6	27.1	27.7	32.1	7.0	10.9	19.2
55~64		100.0	13.2	46.0	26.3	23.6	34.1	28.6	4.1	5.2	12.4
65~74		100.0	9.0	36.1	23.2	19.4	41.4	26.0	3.5	2.7	11.8
75~84		100.0	5.7	29.2	13.0	10.7	43.8	23.0	3.1	2.3	16.3
85歳以上(再掲)		100.0	6.0	26.3	4.1	4.4	38.2	19.1	1.3	0.9	20.4
20歳未満		100.0	12.3	57.2	31.0	21.4	38.1	39.2	2.5	2.2	39.6
65歳以上		100.0	7.7	33.1	18.3	15.3	41.9	24.5	3.2	2.4	13.9

注：表4及び図5におけるストレスへの対処法は、上位9位を掲載している。それ以外については参考表2を参照。

図5 性・年齢階級別にみたストレスへの対処法別割合（複数回答）
（最も気になるストレスありの者）



5 ストレスの相談相手

ストレスが生じたときの相談相手は、男女とも「家族」「友人・知人」が特に多い。

性別にみると、男性は「家族」49.4%、「友人・知人」37.5%であるが、女性では、両者とも55%を超えている。

これを、年齢階級別にみると、男性では、12歳から34歳までは「友人・知人」が、35歳以上では、「家族」が最も多くなっている。一方、女性でも同じような傾向であるが、45歳以上で「家族」が最も多くなっている。(表5)

表5 性・年齢階級別にみたストレスの相談相手（複数回答）

(%)	総 数	家 族	友人・ 知人	職場の 上司	学校の 先生	公的な 機関の 相談員	民間の 相談機 関の相 談員	病院・診 療所の医 師など	テレビ・ ラジオ、 新聞等の 相談コー ナー	左記以外 で相談し ている	相談した いがため らってい る	平成12年	
												相談した いがわか らない	相談する 必要がな い
総 数	100.0	54.5	47.2	4.4	1.0	1.3	0.5	6.2	0.7	1.3	3.3	3.6	15.5
男	100.0	49.4	37.5	6.1	0.8	1.1	0.4	5.5	0.7	0.8	3.3	4.2	22.2
12～14歳	100.0	43.3	47.5	0.5	4.9	0.5	0.2	0.2	0.2	0.5	2.2	1.8	34.8
15～24	100.0	38.0	65.5	5.6	3.3	0.2	0.0	1.0	0.4	1.1	2.9	2.5	21.4
25～34	100.0	51.1	52.2	12.1	0.3	0.5	0.3	1.5	0.2	1.0	4.1	4.8	17.3
35～44	100.0	57.3	40.3	11.5	0.2	0.9	0.5	3.0	0.4	0.9	3.2	4.8	20.6
45～54	100.0	52.4	33.6	6.1	0.2	0.9	0.5	4.0	0.3	0.7	4.2	5.1	22.6
55～64	100.0	50.7	24.5	2.9	0.1	1.5	0.5	8.0	1.3	0.6	3.5	4.5	25.6
65～74	100.0	47.8	16.0	0.7	0.1	2.3	0.5	13.6	1.7	0.6	2.6	3.9	23.2
75～84	100.0	45.4	12.7	0.9	-	2.3	0.6	17.0	1.7	0.4	1.7	3.4	21.4
85歳以上 (再掲)	100.0	48.3	10.9	0.6	-	2.3	2.3	18.4	1.7	1.7	3.4	5.2	18.4
20歳未満	100.0	39.2	57.3	1.4	4.9	0.4	0.1	0.5	0.3	0.7	2.5	1.9	28.2
65歳以上	100.0	47.2	14.8	0.7	0.0	2.3	0.6	14.8	1.7	0.6	2.4	3.8	22.5
女	100.0	59.3	56.2	2.9	1.3	1.5	0.6	6.8	0.7	1.7	3.3	3.0	9.4
12～14歳	100.0	43.9	71.1	-	7.8	-	0.2	0.2	0.2	1.0	2.9	3.1	13.7
15～24	100.0	53.2	80.4	5.3	4.5	0.7	0.2	1.3	0.3	2.1	3.6	2.6	8.1
25～34	100.0	70.2	73.7	5.3	0.6	1.4	0.4	3.5	0.2	2.1	2.8	2.5	5.1
35～44	100.0	66.9	69.5	4.0	2.0	1.4	0.7	3.2	0.6	2.3	4.1	3.2	6.3
45～54	100.0	64.2	58.8	3.2	0.5	1.5	0.6	5.8	0.6	1.7	4.2	3.5	8.4
55～64	100.0	57.4	44.0	1.2	0.2	1.6	0.9	9.0	1.4	1.3	3.4	3.2	11.4
65～74	100.0	50.5	30.0	0.3	0.1	2.2	0.7	14.0	1.1	1.3	1.9	2.9	13.3
75～84	100.0	48.0	22.3	0.7	-	2.2	0.9	15.2	0.9	1.0	2.9	3.7	14.9
85歳以上 (再掲)	100.0	51.7	14.1	0.3	-	3.1	1.3	18.2	1.3	1.9	2.2	2.5	13.2
20歳未満	100.0	46.6	77.5	1.4	7.6	0.2	0.1	0.3	0.4	1.6	3.4	2.3	11.0
65歳以上	100.0	49.8	26.2	0.4	0.1	2.3	0.8	14.8	1.0	1.2	2.2	3.1	13.8

6 最も気になるストレスの状況

最も気になるストレスの内容は「仕事上のこと」17.0%が最も多く、「自分の健康・病気・介護」14.9%、「収入・家計」9.0%と続いている。(表6)

最も気になるストレスの内容について、その対処法を性別にみると、男性は、「仕事上のこと」「職場や学校での人づきあい」「収入・家計」などについては、「趣味・スポーツにうちこむ」とする対処法が多い。一方、女性では、ストレスの内容にかかわらず、その対処法として「人に話して発散する」が最も多くなっている。(表7)

表6 性別にみた最も気になるストレスの内容別構成割合
(最も気になるストレスありの者)

(%)		平成12年							
	総数	職場や学校での人づきあい	家族関係	自由にできる時間がない	仕事上のこと	自分の健康・病気・介護	家族の健康・病気・介護	収入・家計	その他
総数	100.0	7.9	4.8	3.8	17.0	14.9	7.6	9.0	34.9
男	100.0	7.7	3.0	3.8	26.0	13.6	5.9	7.7	32.3
女	100.0	8.0	6.3	3.8	9.7	16.0	8.9	10.1	37.1

表7 最も気になるストレスの内容別にみた性別のストレスへの対処法
(最も気になるストレスありの者)

(%)		平成12年									
	総数	ストレスの内容の解決に積極的に取り組む	人に話して発散する	趣味・スポーツにうちこむ	テレビを見たりラジオを聞いたりする	のんびりする	アルコール飲料(酒)をのむ	じっとたえる	ねてしまう	その他の対処法(特になしを含む。)	不詳
総数	100.0	6.7	20.5	11.2	5.4	7.6	5.3	5.5	5.9	18.7	13.4
男	100.0	7.2	10.2	15.6	5.8	8.7	9.5	5.1	6.2	17.8	13.7
職場や学校での人づきあい	100.0	5.8	18.4	22.3	4.8	7.7	9.6	3.9	4.6	13.7	9.1
家族関係	100.0	7.2	7.2	13.0	6.3	6.3	16.1	12.6	7.6	10.8	13.0
自由にできる時間がない	100.0	5.2	6.6	12.9	4.9	13.6	7.7	2.8	12.5	24.0	9.8
仕事上のこと	100.0	8.7	13.1	17.7	2.4	9.4	13.6	3.4	5.2	16.5	10.1
自分の健康・病気・介護	100.0	4.4	5.3	10.4	11.6	11.1	7.2	3.6	10.0	18.6	17.7
家族の健康・病気・介護	100.0	8.8	7.4	11.9	9.0	7.9	4.7	4.3	2.9	24.9	18.2
収入・家計	100.0	5.7	8.3	13.3	4.5	8.3	10.3	9.0	5.7	18.2	16.9
女	100.0	6.3	28.9	7.5	5.0	6.6	1.8	5.7	5.7	19.5	13.1
職場や学校での人づきあい	100.0	4.1	45.8	10.0	2.7	6.1	2.0	4.4	5.0	13.6	6.1
家族関係	100.0	3.8	33.4	7.7	3.9	2.7	3.6	11.0	5.0	19.9	8.9
自由にできる時間がない	100.0	2.8	27.7	9.3	4.5	7.9	1.1	6.8	7.3	20.3	12.1
仕事上のこと	100.0	7.5	39.4	8.4	2.4	8.3	2.7	2.0	5.7	15.6	8.1
自分の健康・病気・介護	100.0	4.6	17.7	7.9	10.6	8.4	1.1	3.9	7.9	18.5	19.4
家族の健康・病気・介護	100.0	6.7	23.7	9.0	5.8	5.2	1.1	5.1	3.3	23.5	16.5
収入・家計	100.0	8.6	23.1	6.1	5.7	6.2	2.8	10.3	5.9	16.1	15.1

7 ストレスに対する周囲のサポート状況

ストレスの程度別に周囲のサポート状況をみると、ストレスの自覚が軽くなるほど、「とてもよく理解してくれている」とする者の割合が多くなり、ストレスがまったくない者では39.8%である。(表8, 図6)

生活への影響の程度別にサポート状況をみると、生活への影響が軽くなるほど「とてもよく理解してくれている」の割合が多くなり、なんらかのストレスがあっても生活への影響がまったくない者では、その割合は36.3%となっている。(表9, 図7)

表8 ストレスの程度別にみた周囲のサポート状況別構成割合

(%)	平成12年							
	総数	とてもよく理解してくれている	少し理解してくれている	あまり理解していない	まったく理解していない	理解してくれているかどうか分からない	理解してもらわない必要はない	不詳
総数	100.0	28.9	36.8	6.9	1.6	9.5	7.1	9.2
ストレスが大いにある	100.0	24.9	35.7	11.0	5.4	12.1	5.7	5.3
ストレスが多少ある	100.0	25.4	44.4	9.2	1.5	10.2	4.5	4.7
ストレスがあまりない	100.0	31.4	37.3	4.6	0.6	9.6	7.4	9.1
ストレスがまったくない	100.0	39.8	23.0	2.6	0.6	7.2	14.9	12.0

表9 生活への影響の程度別にみた周囲のサポート状況別構成割合

(%)	平成12年							
	総数	とてもよく理解してくれている	少し理解してくれている	あまり理解していない	まったく理解していない	理解してくれているかどうか分からない	理解してもらわない必要はない	不詳
なんらかのストレスありの者	100.0	27.3	40.8	8.0	1.8	10.3	5.6	6.2
生活への影響が大いにある	100.0	22.1	32.4	12.1	6.8	14.4	5.2	6.9
生活への影響が多少ある	100.0	22.7	45.3	10.8	2.1	10.4	3.8	4.8
生活への影響があまりない	100.0	28.4	42.3	6.9	1.0	10.2	5.3	5.9
生活への影響がまったくない	100.0	36.3	32.4	4.1	1.0	9.0	10.8	6.3

図6 ストレスの程度別にみた周囲のサポート状況別構成割合

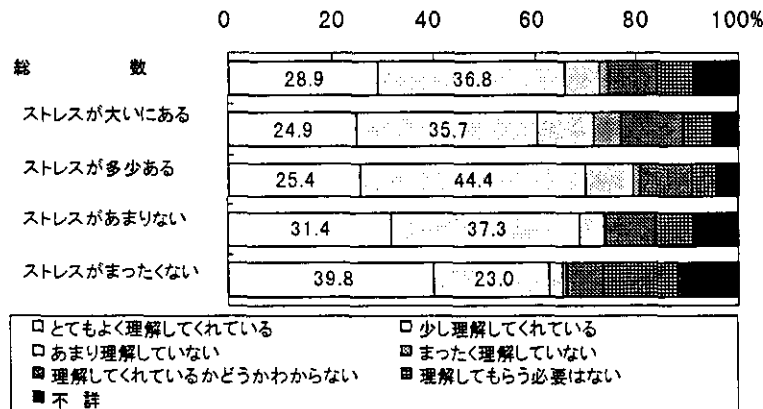


図7 生活への影響の程度別にみた周囲のサポート状況別構成割合

